

## 「宮城県を元気にする高知応援隊」に参加して

(株)第一コンサルタンツ 調査一課 柿本 幸広

### はじめに

5月某日、社内で「東北へボランティアをしに行くか？」と声をかけられ、とっさに「人数的に問題が無く、受け入れてもらえるのであれば参加します。」と返事したのが事の始まりでした。当初の気持ちとしては“行くのは面倒だな”と思っていました。

しかし、これまで地震の避難路や津波の被害想定などの業務に携わったこともあり、ニュースやテレビで見た被災現場がどのような状況にあるか見てみたい。また、今までこのような本格的なボランティアには参加した経験がなかったため、“何事も経験”と思いボランティアに参加しました。

### 6月16日(木)

11時ごろ、社長を始め社員の皆さんに見送られるなか、輸送班6名が車両2台に乗り込み仙台に向け出発しました。



天候はあいにくの雨。瀬戸大橋では強風でハンドルを取られたりしましたが、安全運転を心がけ走行しました。

北陸自動車道に入る頃には雨も上がり走りやすくなりました。徐々に疲労が溜まってゆき、磐越自動車道に入る頃には全員の疲労がピークに達し、短いスパンで休憩を取りながらなん

とか17日の早朝に仙台に到着しました。

仙台市に入って主要道路を走ってみると、古い民家の一部崩れていたりただけで、ほとんど震災の影響が見られず、復興が進んでいると感じました。この時点では。

### 6月17日(金)

14時ごろに仙台駅前で本体と合流し、仙台市近郊の被災状況をバスで視察しましたが、陸路1,200kmの疲れと睡眠不足のために車酔いになり、バスの中では使い物になりませんでした。

視察ではニュースや新聞で見た光景が広がっており、海岸に近づくほど震災の影響を見ることとなりました。



僅か数百メートル毎に被害の状態が、壁の一部が崩れる 壁がなくなる 柱がなくなり基礎部分だけ残る。悲惨な津波の影響を目にしました。

被災前の衛星写真と現状の比較



今回のボランティアに参加するまでは、地震の揺れによる被害が相当あると思っていました。

だが、この視察で見た状況では、今回の地震では揺れによる倒壊よりも、津波による沿岸部の被害の凄さを感じました。

視察が終わり、松島町の野外活動センターで夕食をとった後、翌日の炊き出しについてのミーティングを行い、テントの設置方法、各担当の役割や注意事項の確認を行い、ようやく長い一日が終了しました。

### 6月18日(土)

早朝、長旅の疲れが抜けないうまま、炊き出しに向け身支度を整え、バスに乗り込みました。バスは松島～南三陸～気仙沼のルートで走行することになっており、私は気仙沼で炊き出しを行います。

高速を降り、南三陸町に近づくと津波の爪あとを目にすることになりました。



南三陸で炊き出しを行う志津川高校に到着するころ、付近は瓦礫の山でした。道路上は瓦

礫が除去されていましたが、周辺の復興は進んでおらず、大型の重機で大きな瓦礫の撤去を行っていました。

被災後3ヶ月が経っていましたが、この様子では人が住めるようになるまで、まだ暫くかかると感じました。

志津川高校で南三陸班を降ろし、私たちが炊き出しを行う気仙沼に向け出発しました。途中でも、あちこちに被災による爪痕を見ることになりました。



一部、主要道路が通行できず、バスがやっと通ることのできる迂回路を走行したり、渋滞につかまったりし、約1時間遅れの11時ごろに炊き出しを行う気仙沼高校に到着しました。

到着後すぐに輸送用のトラックから機材を降ろし、カレー・スープ用の鍋とコンロ、鶏唐揚・ナスのたたき用のフライヤーを設置し、テントの組み立てや机の配置などを行いました。



設営が終わり、食材が温まるまでに若干時間がかかりましたが、12時半ごろに炊き出しの提供が始まりました。

炊き出しは好評で、被災者の方を含め、避難所となっている気仙沼高校の学生達も「美味しいです」と喜んでいただくことができました。



炊き出しの提供がひと段落し落ち着いてきたころにメッセージカードを配り、炊き出しや高知の人へのメッセージを書いてもらいました。炊き出しの感想や感謝の言葉が記されており、とても嬉しく来て良かったと思いました。



炊き出しが終了し、機材の撤去が完了した後で、持参した支援物資の引渡しを行い、避難所の体育館でよさこい踊りを披露することに。

体育館に入ると何度かニュースなどで見たことのある段ボールで仕切られた光景がありました。こんなところで鳴子を響かせて踊っても良いか、クレームが入らないかと心配しまし

たが、避難所の皆さんは笑顔で迎えてくれ、楽しく踊ることができました。

お世話になった方に挨拶を済ませ、15時ごろ僅か4時間弱の滞在で気仙沼高校を後にしました。

南三陸班と合流し、本日の予定が無事に終えることができたとの連絡を受け、肩の荷を半分下ろすことができたと感じました。

## 6月19日(日)

8時ごろ「宮城県を元気にする高知応援隊」の解散式。お世話になった方々にお礼をし、当社の調査班を除く10名は多賀城市の災害ボランティアセンターに出発しました。

道中でタクシーの運転手より、松島は小さな島に守られたことや、地形の関係などから、津波の影響は少なく復興が進んでいる。津波の被害にあった人は、第1波が引いた後に自宅の様子を見に行き第2波、3波でやられた。などの貴重な話を聞き、改めて津波の恐ろしさを感じました。

災害ボランティアセンターで受付を済ませ、センター2階で作業の説明を受けました。

私達のチームは6人で民家床下の泥だしを行う。必要な道具を1階で受け取ってから送迎車で現地まで送るとのこと。

1階にはスコップ、一輪車、ゴーグル、ゴム手袋、長靴など必要に応じて貸し出しを行っており、手ぶらで来てもボランティア作業を行えるようになっていました。

必要な道具を借り受け、作業現場に到着すると、自宅兼用の焼き肉屋さん。壁には約160cmの所に津波の痕跡が残っていました。

家主の方に詳しい説明を受けると、床板は剥がし終わっているため、剥がした床板と床下に溜まった泥を土嚢袋に入れて指定の収集場所に持って行って欲しいとのこと。さっそく6人で作業に取りかかりました。

作業中に家主さんに、「高知とはまた遠くから来たね。大変だったろう。」との声をかけてもらいましたが、あなたのほうが遙かに大変です。私達は僅か1日しか作業を行わないが、被災された方は、これまで3ヶ月間、これからもしばらくこのような状況で生活をしなければならないと思うと心が痛みました。心遣いに感謝しつつ、作業を行う手に力が入りました。

12時前に作業が終了し、家主さんの確認を受ける。感謝の言葉とともに、「さっきスイカをもらったから皆さんで食べてください。」とのこと。東北の方はいい人ばかりでした。

12時ごろにセンターに帰ると他のメンバーは既に帰ってきて昼食をとりつつ休憩していました。これからどうするか相談していると、「別の現場で作業があるけれどよろしいでしょうか。」と声がかかる。詳しい説明を受け、午前中から12人で民家の瓦礫撤去を行っているため、そこに応援に行くことになりました。追加の道具を送迎車に乗せ、社員10人で現場に向かいました。

現場は住宅地の一角、1階部分は津波により壁だけになっており、昨日でタンスなど大物は撤去したとのこと。午前中から瓦礫やゴミを片付けていたらしいが、まだひどい状況でした。

隣の家を見ると、全く手を付けられておらず、タンスや棚が倒れ、漂流物が絡みつき足の踏み場も無い状態。自宅がこうなったらと思うとゾッとしました。

現場のリーダーに説明を受け、総勢24名で作業を行う。ゴミと泥を分け、ガラスの破片や貴重品をゴミの中から取り出しながら土嚢袋に詰める。ゴミの中には写真や思出の品などの必要な物が紛れているため、確認しながらの作業。屋内の作業が一段落すると、倒れたブロック塀の運び出し、建物周辺の清掃を行い、無事作業終了。家主さんの確認を受け、撤収しまし

た。

15 時ごろセンターに帰り、道具の返却が終わりようやく一息つく。ボランティアのメンバーと挨拶を済ませ、仙台市のホテルへと向かいました。



ホテルでチェックインを済ませ、汗と泥だらけの作業着を脱ぎ、ゆっくりシャワーを浴びてさっぱり。主な工程がすべて終了し、ようやく肩の荷が下りました。

この日は、達成感と疲労から夕食後すぐに眠っていました。

## 6月20日(月)

出発まで時間があることから、ボランティア班 10 名で松島観光へ向かいました。

国宝「瑞巖寺」や周辺施設を見学し、松島観光遊覧船に乗りました。松島は被害が少なかったとはいえ、海岸線には津波の爪痕が未だ残っており、遊覧船の乗客も僅かでした。



14 時ごろに仙台駅で本体のメンバーと合流

し、のんびり新幹線に揺られ東京へ向かいました。

17 時ごろに東京駅に到着しモノレールで羽田空港へ。節電のためかモノレールのエアコンが弱く汗だくになりました。こんな所でも地震の影響を感じます。

羽田空港ですっかり軽くなった財布と相談しながら、家族へのお土産を購入し、最終便で高知に向かいます。悪天候のため若干揺れたらしいですが、私は離陸前に熟睡していました。

20 時ごろに高知龍馬空港に到着。帰りは約 6 時間、6 月 16 日に約 20 時間かけた道のりを思うとなんと楽なことが。空港ロビーでメンバーに挨拶を済ませ、空港バスで会社に向けて出発。

21 時ごろようやく会社付近のバス停に到着し、雨の中、自宅まで急いで歩き、ようやく全行程が終了しました。

## 最後に

日頃、ボランティア活動など行ったことはありませんでした。今回、本格的なボランティアに参加し貴重な体験を得ることができました。

津波の爪痕や被災された方の体験談を胸に刻み、いつか訪れる東南海・南海大地震の備えに活かしたいと思います。

今回お世話になった「宮城県を元気にする高知応援隊」の方、松島町でお世話になった皆様、本当にありがとうございました。

当初は“行くのは面倒だな”と思っていましたが、今となっては、“また機会があればボランティアに行きたい。”と思うようになりました。いつの日か復興され、元気になった宮城県を訪れてみたいと思います。